



大阪府中央会情報連絡員報告

## 府内中小企業の景況

2023年  
9月

1. 9月のDIは、全9指標のうち4指標が下降、主要3指標は、収益状況は変化なし、売上高25ポイント、業界の景況8ポイントとそれぞれ下降している。
2. 9月末時点では、製造業では7指標のDIが下降、また非製造業では1指標のDIが下降している。

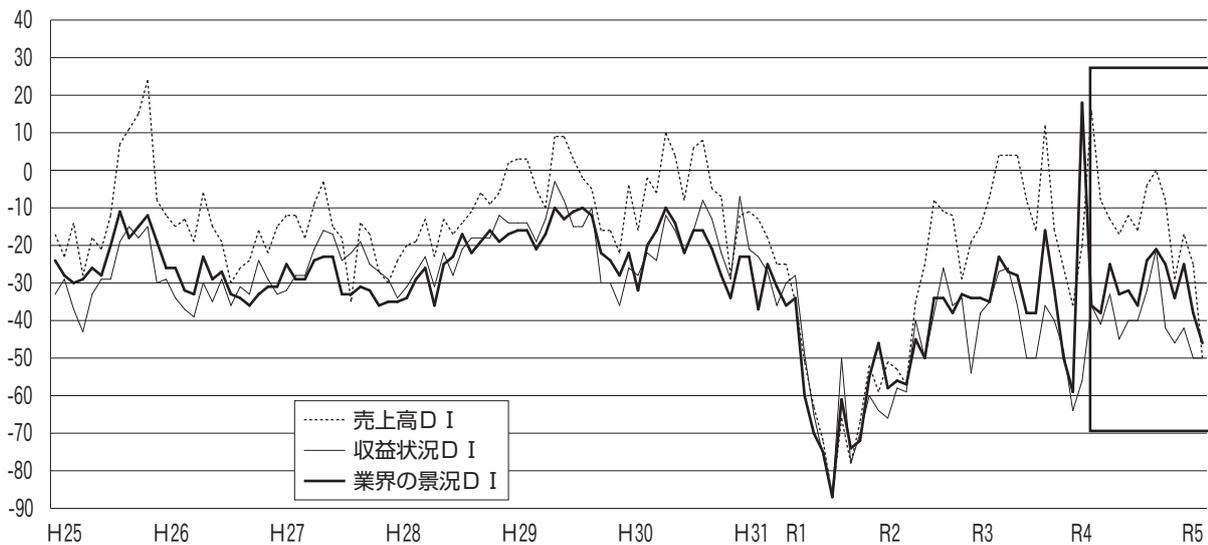
## 景況天気図

令和5年 9月分	全産業			製造業			非製造業			30以上
	8月	9月	前月比	8月	9月	前月比	8月	9月	前月比	快晴
売上高	△25 	△50 	↓ -25	△22 	△57 	↓ -35	△30 	△40 	↓ -10	
在庫数量	0 	16 	↓ 16	△7 	14 	↓ 21	11 	10 	↑ -1	
販売価格	21 	25 	↑ 4	36 	29 	↓ -7	0 	20 	↑ 20	9~△9 
取引条件	△17 	△13 	↑ 4	△7 	△7 	→ 0	△30 	△20 	↑ 10	うす曇り
収益状況	△50 	△50 	→ 0	0 	△50 	↓ -50	△60 	△50 	↑ 10	△10~△29 
資金繰り	△21 	△17 	↑ 4	△21 	△14 	↑ 7	△20 	△20 	→ 0	くもり
設備操業度	△22 	△36 	↓ -14	△22 	△36 	↓ -14				△30~△49 
雇用人員	△17 	△17 	→ 0	△21 	△22 	↓ -1	△10 	△10 	→ 0	△50以上 
業界の景況	△38 	△46 	↓ -8	△43 	△57 	↓ -14	△30 	△30 	→ 0	大雨

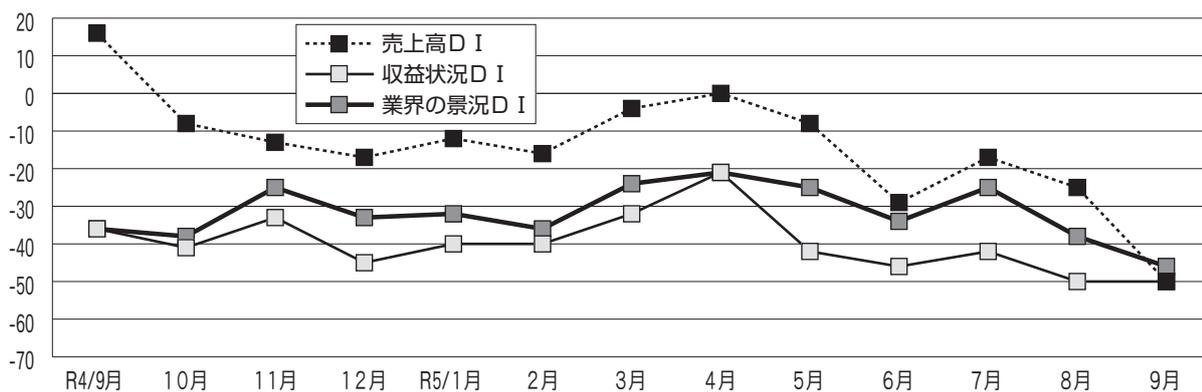
天気図の見方…各景況項目について「増加」(または「好転」)業種割合から「減少」(または「悪化」)業種割合を引いた値をもとに作成。その基準は右記のとおりです。ただし、在庫数量はプラスの場合は雨、マイナスの場合は晴れの方向に表しています。

DI (Diffusion Index: ディフュージョン・インデックス) とは、景気動向指数や景気判断指数と呼ばれており、景気動向を早期に把握するために使われる指標である。「増加・上昇・好転」といったプラス回答の比率から、「減少・低下・悪化」というマイナス回答の比率を差し引いて求める。

全産業 H25年9月～R5年9月のDIの推移



全産業 R4年9月～R5年9月のDIの推移



業種別概況 (9月分)

【製造業】



水産食料品製造業

少しずつであるが、飲食店等からの注文も増えつつある。しかしながら、水産物の価格高騰などの影響により、まだまだ厳しい状況が続いている。



帽子製造業

残暑が厳しく、秋物商品の販売不振により売上、収益ともに悪化している。



木材加工業

前年同月と比べ、売上高は減少している。入荷量自体は、前年と変わらなかったもののセリ売り落札価格が低く売上に影響したものと考えられる。組合員についても依然として厳しい業況が続いている。



建築金物製造業

燃料価格、原材料費をはじめとする諸物価の高騰や物流コストの高止まり、人件費の高騰、人手不足など業界各社をとりまく経営環境は依然として厳しい状況にある。ウクライナ情勢の長期化、世界経済の減速懸念など、今後も景気の下振れが見込まれるため、しばらくはこの状況が続くものと予想される。8月の新設住宅着工戸数は、70,399戸で前年同月比9.4%減と3カ月連続の減少となった。そのうち大阪府の同着工戸数は前年同月比25.4%減と全国平均を下回った。一方、8月の民間非居住建築物の着工床面積は、931万㎡で前年同月比10.7%減と7カ月連続の減少となり、その減少幅は月を追うごとに拡大している。建築資材をはじめ原材料価格の高騰、人件費の上昇が今後も続くと思込まれるなか、その動向を注視していきたい。

 **古紙収集加工業**

9月も古紙の発生は非常に悪い。コロナ禍の時と変わらない発生状況である。例年ならば秋需となり古紙の発生量も増えて来るはずであるが、紙・板紙の生産量は全品とも減少しており、古紙の需給は低位でバランスしている。輸出市況については、古紙の輸出価格がジリジリと上昇している、中国の独身の日などの秋需向けに東南アジアの再生パルプを増産した為と思われる。またインドからの引合いも増えた事で欧州古紙と連動し価格が上昇している。新聞古紙価格に大きな変動は無い。

 **製本業**

9月期に入り、今までの不況が嘘のような動きが一部業種で起きている。10月のインボイス制度との関係があるのかと思われる。このままの状態ですら10月期に入り年末まで繁忙が続くことを願うが、反面、インボイス制度で伝票等のペーパーレス化が更に進み、手書き伝票の需要がなく全く仕事の無い業種もある。何処までこの様な状況が続くのか、不安視している。

 **セルロイドプラスチック製品製造業**

前月比2%ダウン、前年比25%ダウンと益々悪化の状況。プラスチック加工は、商売の沈滞により廃業が増加しており、加えて新規アイテムや増販のきっかけとなるイベント類が低調で、市況は全く先が見えない。

 **石鹼洗剤製造業**

コロナの収束ムードにより、外出・インバウンド需要は復活。外出の活発化に伴いコスメ等の売り上げは伸びているが、生活防衛意識の高まり、エネルギーコストの上昇から物流費の高騰もあり、厳しい環境となっている。外出や行楽に伴う需要は活発化しているものの、原材料、エネルギーコストの高騰で商品の値上げ、光熱費上昇の負担は生活者の生活防衛意識を高め、日用消耗品の消費に影響を与えている。生活者の清潔で快適、健康をサポートする高付加価値商品で市場活性化することに努力しており、市場が厳しくても、価値を認められた商品は好調に推移している。

 **鍛造業**

生産量において、先月より少し落ち込み、今月度は5%近い前年割れとなった。主要の自動車用が先月よりは減少したものの、前年同月度を数%アップしたが、もう一つ主要の産業機械・土木建設機械用が先月以上の20%近い減となり、全体として前年同月を下回った。依然として先行き不透明感はぬぐえない。

 **産業機器製造業**

EV車の市中での販売が増えてきたため、組合員の部品製造内容が変わりつつある。

 **印刷製本機械製造業**

印刷業界の先行き見通しが、非常に悪い。廃業や印刷業界からの撤退が起きている。

 **配電盤製造業**

資材価格の上昇分が少しづつ受け入れられるようになっている。

## 【非製造業】

 **電気機器卸売業**

企業間格差はあるが、業界全体としては前年度同月対比売上、横這い推移。仕入価格の上昇もあり、粗利率は弱含み（前年対比）。業界全体としては、安定した推移を確保。各組合員とも相応の業績を確保できており、前年対比では略横這いの業績推移を確保。供給不足についても徐々に解消されてきており、各社安定した業績を確保している。一方、影響が懸念されている労働力不足については、人材確保に不安を持つ組合員が増えている。また、24年物流問題についても各社不安視している。

 **衣服・身の回品卸売業**

円安による仕入れ価格の高騰から、採算面は依然厳しい状況が続いている。来月から開始されるインボイス制度の影響が不透明で、経営面に不安を抱えている。

 **二輪自動車小売業**

販売は上昇傾向には向いていない。引き続き、商品の在庫過多である。収益状況も悪く、景況感も悪い。

 **地質調査業**

業界内では、春先よりボーリングマシンが足りないとの声を聞く。地盤調査業界の景況は悪くない。組合を取り巻く状況については、大阪府をはじめとする役所発注〈土質試験を含む調査〉は多くはない。しかしながら、民間主導の開発事業に伴う業務発注があり、ほぼ計画通りである。

 **警備業**

昨年は大型の交通誘導警備業務の受注があり売上が好転したが、今期は受注が無く減少に転じた。

 **建設業**

まだ、回復までいかないが少しずつ受注が入りつつある。

 **タイル工事業**

大阪・関西万博を背景に、技能士の不足が予想され、工事予算、施工費の予算に狂いが生じている。

 **貨物運送業**

一般客、法人とも問い合わせ件数及び見積依頼件数が増加したため受注件数はやや増加、引越料金は前年と同等で売上高は増加した。燃料価格は多少落ち着きつつあるとは言え負担減には繋がっていない。そのため収益状況はやや悪化となった。